

研究レポート No.832 岩手県農業研究センター

常時被覆育苗による乳苗移植栽培の特徴

【1 成果概要】

- (1) 乳苗移植栽培は、箱当たり播種量を乾籾 200～250 g で播種を行い、移植時の 10a 当たり必要箱数を低減する技術で、低コスト技術の一つとして期待できます。
- (2) 乳苗の育苗は、箱当たり播種量を乾籾で 200～250g、床土に無肥料培土を使用して播種を行い、加温出芽して置床後、被覆資材で常時被覆して管理し、置床後 9～12 日間の育苗で移植可能な草丈 8～12 cm 程度の苗質を確保できます (図 1、表 1)。
- (3) 乳苗の移植は、既存の田植機で標準の移植爪を使って移植可能です。また、10a 当たり使用箱数は坪当たり 50 株植で 11～12 箱、60 株植で 12～13 箱、70 株植で 14～15 箱程度です。
- (4) 収量は、稚苗と同程度確保でき、品質、玄米タンパク質含量も同等です (表 2)。

※乳苗とは、本葉 1～2 葉の苗の名称です。

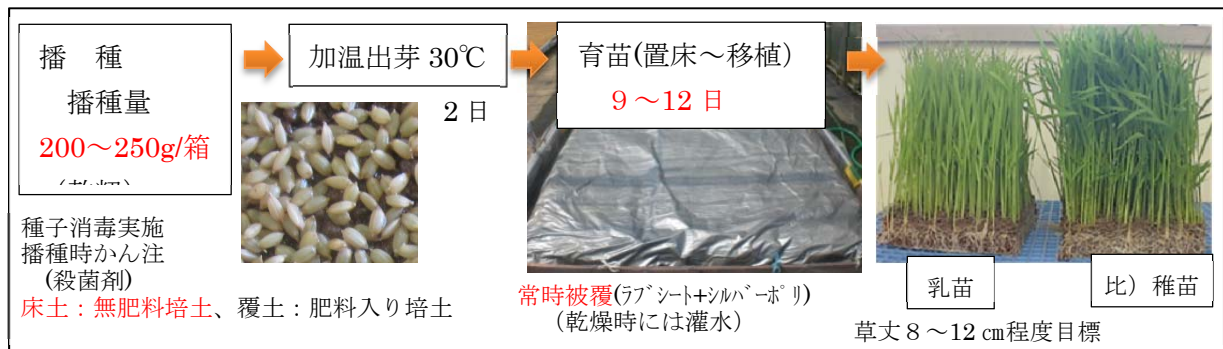


図 1 乳苗の育苗方法 (注：平成 16、21 年宮城県研究成果に準じて作成)

表 1 苗 質

年次	苗質	播種量 乾籾 g/箱	育苗日数 (置床～ 移植)	草丈 cm	葉齢 葉	マット 強度 kgf
2014	乳苗	200	9	10.1	1.5	1.08
	中苗	100	30	21.5	3.1	3.96
2015	乳苗	220	9	8.4	1.8	1.79
	稚苗	150	23	13.3	2.9	5.81
2016	乳苗	250	12	13.8	2.0	1.58
	稚苗	150	26	19.6	2.7	6.91

注) 品種：ひとめぼれ マット強度：根マット断片をプッシュプルゲージで牽引、裂断時の値(値の高い方がマットが崩れにくい)

表 2 収量、品質

年次	苗質	栽植 密度 株/m ²	穂数 本/m ²	精玄 米重 kg/10a	検査 等級	玄米タン パク含量 (乾物%)
2015	乳苗	15.4	420	534	1中	6.0
		20.3	418	474	1中	6.2
	稚苗	20.7	424	513	1中	6.2
		21.4	459	544	1中	6.2
2016	乳苗	15.7	444	646	1下	6.8
		18.8	449	637	1中	6.9
	稚苗	20.2	446	671	1中	6.7
		19.0	448	621	1下	6.7

注) 品種：ひとめぼれ 苗質：表 1 の 2015、2016 年のとおり
玄米タンパク含量は K 社製 AN-820 測定値

【2 留意事項】

- (1) この技術は、宮城県で開発した簡易な乳苗移植栽培技術(平成 16、21 年)について岩手県南部での適応性を確認したものです。
- (2) 根のマット強度がやや劣るので、田植機へ苗をのせる際には苗取り板が必要です(表 1)。※本成果は、復興庁・農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」で得られた成果です。

担当研究室 プロジェクト推進室

〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4412 FAX. 0197-71-1081